

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒の学力向上と希望進路を保障する教育課程を編成する。 ②希望進路保障のための授業改善に取り組む。	①授業時間数確保と新教育課程の有効な活用・改善を推進する。 ②本校生徒に身につけさせたい力について教員間で共通理解を深め、授業改善を進める。 ③家庭学習を定着させ、主体的に学習に向かう姿勢を育成する。	①授業時間数確保と新教育課程の適切な実施、改善の推進。 ②授業改善に関する研修会、教科での授業研究、授業見学、学校全体での研究授業等を1年間全体で関連付けて適切に実施する。 ③定期的に家庭学習時間について振り返る機会を設定し、計画・実行・点検・改善のサイクルを主体的に行えるように指導する。	①授業時間数を確保できたか。 ①新教育課程に対する生徒の満足度(生徒による授業評価) ②授業において生徒の理解を促し、考えを表現する場を作り出せたか。(「生徒による授業評価」における該当項目の肯定評価80%以上維持。) ③家庭学習時間の伸長率。	①授業時間数は確保することができた。 ②生徒による授業評価において、高評価の割合はいずれの項目においても8割を超えることが出来た。 ③長期休業や自宅学習期間などに、計画的に課題などを課した。	①学校行事などが復活するにあたり、授業時間数とのバランスが今後の課題となる。 ②新教育課程の学年が増えるに従い、新しい科目でも授業に対する満足度を保つようにする。また、授業や評価に関する研修会を実施する。	・評価、ICT、ユニバーサルデザインと観点を設けて授業の刷新を実現している。 ・学びの進捗に様々な様態がある中、ユニバーサルという視点で多様性を担保しようとしている。 ・一人一台端末の活用を双方向性や教科書のデジタル化で実施するのが潮流だが、デジタルとペーパーの優劣も要考慮だろう。	①指導と評価が一体化する評価システムを構築し、日々の授業に導入を開始した。 ①年間計画の履行を重視し行事や会議の時間捻出は短縮授業で対応した。 ②教科により課題を課す頻度が高まったが、時期による偏りと評価の事務処理が業務を圧迫した。	①評価資料を効率的に収集・評価する手法をICTで実現する。 ①一人1台端末に対応する研修を企画・実行する ②本校の抱える教育的課題及び生徒のニーズにあった内容の課題となるよう教科間で事前に協議する。 ②個々の生徒の学習習慣確立と学習内容定着の更なる向上に向けた計画的・組織的な取り組みを行う。
2 生徒指導・支援	①生徒の主体的な活動による学校行事や生徒会活動等を通し、生徒がお互いを尊重し、協働する姿勢を身に付けさせる。 ②生徒の多様性を踏まえた支援体制の充実を図る。 ③本校のSDGs(環境問題)の体制づくりに取り組む。	①学校行事や生徒会活動の企画・運営を通し、生徒の主体性や責任感・連帯感の向上を図り、自ら挑戦させる。 ②生徒の多様性や社会の急激な変化を踏まえた支援体制の推進を図り、併設されている鎌倉養護学校の巡回指導も含め、共生を推進する。 ③SDGs(環境問題)についての内容を共有し推進する。	①生徒会や各種委員会活動に、生徒自身が主体的に取り組み、行事が活性化するように支援する。 ②教育相談を柱とし、外部機関等との柔軟な連携を進め、共通理解のある支援体制の確立を図る。 ③行事や総合的な探究の時間等で生徒・職員が主体的に取り組むことができるよう支援を図る。	①生徒会の行事や活動に生徒が主体的に取り組み、挑戦できたか。 ②教育相談の成果を踏まえ生徒や保護者に対して適切な対応ができたか。 ③生徒や職員にSDGs(環境問題)について内容を周知し、取り組むことができたか。	①今年度より体育祭を6月に実行した。体育委員会と実行委員(有志)を中心に限られた時間の中で生徒達は主体的に取り組み、実施できた。球技大会では、体育委員会を中心に主体的に実施できた。 ②相談体制を確立し、課題生徒へ働きかけSCと繋げている。 ③金井祭の展示を一過性とせず継続活用可能なものを生かした。	①体育祭を6月実施する為に今年度中(2月)に実行委員を募り動き出している。また、招集や種目のリハーサル・準備の時間を次年度は確保した。体育祭・球技大会の運営方法の流れを次に繋げていく。 ②職員の異動に伴い現体制を維持するよう役割の明示と機動性の確保を遂げる。 ③金井祭のテーマにSDGsに組込む方法・内容を検討していく。	・文化祭時の花火打上げを地域は好意的に受入れている。 ・9月第2土曜の文化祭は地域の祭礼と重なり一体感がある。地域は金井の子として見ている。町内の高校は誇り。	①様々な工夫によりコロナ禍での行事の再開を達成できた。 問題解決のプロセスで得たノウハウを実行委員をはじめ広く生徒達に還元していく事が肝要である。 ②問題行動への取組みに学年で迅速に対応し解決へ辿り着くことができた。規律ある生活や節度ある行動・態度の育成にも取り組む必要がある。	①課題の提示を明確にし、生徒間で検討・対処する十分な時間を確保する周回準備期間を設ける。 ①ネット・携帯電話問題に関する講演会を実施する。 ②いじめに対する校内体制の再整備を進め職員研修により全職員でいじめ未然防止に取り組む。 ・制服のリニューアルを通して規律意識の醸成を図る。 ②SCとより一層の連携を図り、問題を抱えた生徒の早期発見・対応に努める。
3 進路指導・支援	①生徒の希望進路を保障するマネジメントに取り組む。 ②生徒の主体的な進路選択を支援できる進路指導体制づくりに取り組む。	①生徒一人一人が将来を見据えて自分の進路を考えていけるよう、その支援に取り組む。 ②探究活動を通し、情報収集やその後の活用能力の育成に取り組む。	①各種ガイダンスや模擬試験などの考察や振り返りを通して、次に向けた準備をさせていく。 ②個人活動・グループ活動を通して、情報収集方法を会得し、自らの表現につなげていけるよう指導する。	①生徒が希望する進路の実現に向けて努力できたか。 ②探究学習における個人発表・グループ発表において自分を表現することができたか。	①希望進路の実現に向けて生徒自身が考え選択できるような情報提供をすることができた。 ②学年ごとに、探究学習のまとめとして、論文、グループ発表など、自己表現の場を作ることができた。	①進路選択において、積極的な選択をする生徒ばかりではないので、自分の適性、現状把握、目標をしっかりと考えた選択ができるような支援が必要である。 ②自分の進路、進学先でも活かせるよう、発表内容、精度を高めていく必要がある。	・キャリア教育の職業講話がタウンニュースに掲載されたのは良かった。 ・進路学習は検索すれば分かることでなく学校からできることをして欲しい。 ・50周年を迎える中で職業講話を卒業生が担えるように希望する。	①自己の進路に対する視野を広げさせることに寄与できた。次に志望進路に基づき自己の進路を絞り込ませることに一層取り組む必要がある。 ②探究の取組み深化に発表の場を活用できた。意識する生徒の数を増やすのが課題である。	①職業講話の講座の設定を工夫し、さらに充実を図る。また、聞くことから考えることへ深化させるための工夫を重ねる。 ①個人面談の活用度を上げる。 ②本校独自のキャリア教育を更に精選した上で、一つ一つの行事の充実を図る。
4 地域等との協働	①地域や保護者との連携を推進	①コミュニティ・スクールを活用	①3つの部会で連携の在り方をさらに研	①②十分な話し合いの場を持ち、具体的	①②生徒同士の話し合いの場は確保で	①②感染対策を行ったうえで対面での活動を	・「かないパン」等、地域のパン屋、コンビニ等	①個別的な地域との連携に加え、HP・	①地域社会が本校に求めるものを教育活動に

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		し、開かれた学校づくりを進める。 ②本校のSDGs(食育)の体制づくりに取り組む。	し、様々な活動のさらなる体系化を図る。 ②食育推進委員の活動をさらに活性化し、活動内容の普及を図る。	究する。 ①生徒が地域の様々な行事や活動に参加する可能性を探る。 ②食育とSDGsの体系化を検討する。	な提案ができたか。 ①②生徒が主体的に取り組む活動を、計画し実施できたか。	き、食育推進委員が考案し、パン業者が制作した「かないパン」と食育講演会は実施できた。	増やすことで、開かれた学校づくりを推進する方法を研究する。	との連携を模索してはどうか。 ・防災訓練への参加をボランティアでして欲しい。	インスタグラム・説明会等で本校の学校文化や良さを積極的に発信できた。 ②制限の中、食育推進を実現できた。	反映させるための情報収集を行う。 ②制限の撤廃を見据えて食育関連事業を再検討する。
5	学校管理 学校運営	①安全・安心な学校づくりを推進する。 ②開校50周年に向けて準備を行う。 ③教員の働き方改革を推進するための教員の意識改革を図る。	①学習環境の整備を推進するとともに耐震工事中の適切な環境づくりに努める。 ①防災用品の充実を図り、生徒の防災意識を高める。 ②開校50周年に向けて資料を整える。 ③長時間勤務該当者の人数を減らす	①工事中、教育活動に支障がないように関係各所と調整し、安心・安全な環境を整える。 ①防災用品の適切な管理を行う。DIGや避難訓練等を実施し、非常時の適切な行動について確認する。 ②50周年に向けての資料を整理する。 ③会議の削減、業務の精選により業務効率を高める	①工事中、教育活動に支障がないように配慮ができたか。 ①防災用品の整備・充実ができたか。生徒の防災意識を高めることができたか。 ②資料等の整理を実施し、周年行事について検討ができたか。 ③会議の回数が前年度より減少したか。	①関係各所と調整を行い、学習環境を整えることができた。 ①災害時の行動や避難経路等の確認を実施した。1年生全員でDIGを実施した。 ②50周年に向けて、新制服の導入を進めることができた。 ③稟議を活用し2月時点で3回減じられた。(R3.31回 R4.28回)	①工事終了後の教室配置について引き続き検討が必要である。 ①防災用品の備蓄内容や備蓄場所について見直しを持った計画が必要である。 ②50周年に向けて、教育環境の整備等含め具体的に検討を始める。 ③前年度踏襲のものは稟議の活用を進める。	・働き方改革と言われるが、会議を減じても帰らない。子どもを考えたら帰れないのが学校の現状だろう。 ・部活動顧問の負担が大きいが均等化が大切。 ・保護者の式典参加の多数化を本会場とライブ配信の並立等で実現して欲しい。	①水栓のシングルレバー化または非接触水栓化しトイレにアルコール噴霧器も設置し手指消毒が円滑になった。 ・第1期耐震工事が終了し、照明・トイレ環境が改善された。 ②R7.10.30を記念式典日とした。 ③衛生委員会の活動で超過勤務の把握と低減に繋がった。	①耐震工事後の教育活動をより円滑に進めるため、徹底した細部の検討を行う。 ②R7年に向け50周年記念行事検討のため準備委員会を設立する。 ③部活動顧問の勤務実態を変容させる仕組みづくりを検討する。